

病院組織における看護職の集団構造および集団生産性に関する検討

早瀬 良

広島大学大学院総合科学研究科

Group Structure and Productivity of Nurses Working in Hospitals

Ryo HAYASE

Graduate School of Integrated Arts and Sciences, Hiroshima University

Abstract: Offering safe and high quality medical services and securing the employment of medical workers is essential for the success of every medical institution. Medical workers need to collaborate with other types of workers, and must engage in tasks beyond the call of duty, however, past studies have suggested that medical workers do not collaborate extensively with other types of workers. Previous studies that have investigated the quality of medical services have used various definitions of the quality of services. Here, the quality of medical services was clearly defined based on reviews of previous studies, as well as on theories of team medical care. Moreover, studies have suggested that the high turnover of nurses was caused by the inability of nursing managers to accurately understand the reasons for the turnover. This study examined the psychological processes underlying safe, high quality services offered by nurses that continue to work in an organization, from the perspective of social identity theory and dual

identity. This perspective describes the process in which “pride” in the high evaluation of group position and “respect” in the high evaluation of own position in the group strengthens group identity, which in turn promote cooperation.

第1章 病院組織の集団生産性に関する研究の現状と本研究の目的

我が国における昨今の医療に関わる様々な問題（e.g., 大道, 2007; 小野, 2007）から、医療現場では質の高い医療が求められていることを示した。そして医療の質に関する先行研究（e.g., Bulger, 2000）を概観し、その問題点、および質の高い医療提供の実現には、職種を越えて連携するチーム医療が重要である可能性について指摘した。次に、看護師が職種を越えて連携するなどの組織への協力的行動を規定するものとして、集団アイデンティティに着目する理由について述べた。最後に、職種を越えた連携を促進するために、職種カテゴリーを包括する上位カテゴリーへの集団アイデンティティが重要である可能性を示唆し

た。これらの議論に基づいて、本論文の枠組みを示した。

第2章 看護師が同一視する社会的カテゴリーに関する検討

一般的な病院組織に顕在する「病院」「病棟」「職種」という3つの社会的カテゴリーを説明し、社会的アイデンティティ理論 (Tajfel & Turner, 1979) に基づき、看護師が強く同一視しているカテゴリーを検証した。組織のサイズや組織風土による影響を考慮し、複数の病院組織に勤務する看護師を対象とするために、研究1では2005年から2007年の間に行った4つの調査(調査対象者総数:看護師617名)における集団アイデンティティ関連項目を分析した。その結果、看護師は所属している組織に関わらず、看護職という「職種」カテゴリーに最も強く同一視していること、この結果については、看護職としてのキャリア(職位や看護職としての経験年数等)に関わらず認められる頑健な結果であることが示された。また、看護職の集団アイデンティティはそれぞれ中程度から強い正の関連を示すが、病院アイデンティティと病棟アイデンティティの関連は、他の集団アイデンティティ間の関連よりも強い可能性が示唆された。以上の議論から、看護師は「職種」カテゴリーの規範や価値観に基づき行動し、それとは弁別したものとして、「病院」という組織的な上位カテゴリーに対する集団アイデンティティも持っていることを示唆した。

第3章 職種アイデンティティの強化要因およびその機能に関する検討

看護師の職種アイデンティティはどのように強化され、また職種アイデンティティは看護師の組織への協力にどのように影響するかについて検証した。職種アイデンティティの強化要因については、集団への協力の社会的アイデンティティモデル (Tyler & Blader, 2001) に基づき、「職種への誇り」と「看護師からの尊重」に焦点を当てた。

研究2では、A県立の総合病院(254床)と民間の単科病院(120床)に勤務する看護師166名を対象とし、「職種への誇り」「看護師からの尊重」と職種アイデンティティおよび看護業務における具体的な協力的行動との関連を検証した。その結果、「職種への誇り」と「看護師からの尊重」はそれぞれ職種アイデンティティを強化し、職種アイデンティティは職種内協力を促進することに加え、職種アイデンティティは職種間協力も促進するという予測していない結果も認められた。また、「職種への誇り」は役割内行動を規定しないが、「看護師からの尊重」は役割外行動と直接正の関連を示した。役割外行動には医療安全に役立つ項目で構成されている因子が含まれていたことから、尊重は事故防止に役立つ行動を促進する可能性を示唆した。

第4章 病院アイデンティティの強化要因およびその機能に関する検討

看護師の病院アイデンティティはどのように強化され、また病院アイデンティティは看護師の組織への協力にどのように影響するかについて検証した。病院アイデンティティの強化要因については、「病院への誇り」「医師からの尊重」「看護師からの尊重」(研究3-1, 調査対象者:看護師306名)、「医師からの尊重」「師長からの尊重」「看護師からの尊重」(研究3-2, 調査対象者:看護師156名)に焦点を当て、研究3-3(調査対象者:看護師147名)では「病院への誇り」「職種への誇り」「医師からの尊重」「師長からの尊重」に焦点を当て、二重アイデンティティモデル (Dovidio, Gaertner, & Validzic, 1998) を検証した。一連の研究の結果、「病院への誇り」と「看護職からの尊重」はそれぞれ病院アイデンティティを強化し、病院アイデンティティは職種間行動および病院への定着を促進することを明らかにした。この過程は職種アイデンティティを同時に投入したモデルでも認められた。また、「医師からの尊重」は役割外の職種間行動を、「看護師からの尊重」は役割外の職種内行動を直接規定することを明らかに

した。さらに、「医師からの尊重」の効果は、看護師が医師を内集団と認知する程度によって調整される可能性を示唆した。

第5章 医療の質に対する患者評価と看護師評価に関する検討

医療の質について、医療を提供する側である看護師と医療を提供される側の患者の両者の評価を用い、特に職種間の協力によるチーム医療に着目し、患者の満足度との関連を検討した。研究4では、A県の総合病院（254床）を受診した外来患者290名、入院患者205名、第4章（研究3-3）の調査対象者の中で一般病棟に勤務している看護師108名を調査対象者とした。その結果、外来患者は医師の態度評価が肯定的であるほど、外来診療への満足度が高いこと、入院患者は、病棟看護師への態度評価および医療従事者間の連携評価が肯定的であるほど、入院生活への満足度が高いことが示された。しかし、医師の態度評価は入院患者の満足度との単相関は認められたものの、上記

2つの変数によりその影響力は減衰された。また、他者と協力して業務を遂行しているという病棟看護師の自己評価は、医療従事者間の連携に関する入院患者の評価と正の関連を示し、その患者の評価は入院満足度と正の関連を示した。以上の議論から、特に入院患者において、患者満足度に対する医療従事者間の連携の重要性が示された。

第6章 総合考察

本論文で実施した6つの研究を通して得られた知見を総括し、看護師の集団への協力の二重アイデンティティモデルが、患者の医療の質評価に及ぼす影響について述べた。そして、これらの実証的検討を通して、医療の質評価について、医療を提供する側、提供される側からどのような説明が可能であるかを考察し、本論文の学術的意義と実践的意義について論じた。最後に、本論文で得られた知見の一般化可能性について言及し、今後の展望と病院組織への提言について述べた。

引用文献

- Bulger, R. (2000). The quest for the therapeutic organization. *The journal of the American Medical Association*, **18**, 2431-2433.
- Dovidio, J. F., Gaertner, S. L., & Validzic, A. (1998). Intergroup bias, status, differentiation, and a common ingroup identity. *Journal of Personality and Social Psychology*, **75**, 109-120.
- 大道久 (2007). 医療制度改革が病院に求めるもの 病院, **66**, 286-290.
- 小野太一 (2007). 看護師需給施策 病院, **66**, 298-300.
- Tajfel, H., & Turner, J. C. (1979). An integrative theory. In W. G. Austin & S. Worchel (Eds.), *The social psychology of intergroup relations* (pp.33-47). Monterey: Books/ Cole.
- Tyler, T. R., & Blader, S. L. (2001). Identity and cooperative behavior in groups. *Group Process and Intergroup Relations*, **4**, 207-226.